

アンケート調査

地震を体験された多くの県民の方々の地震発生当時の状況や行動、災害への対応策などや、災害対策に様々な分野から取り組んだ防災関係者が震災で得た教訓を、今後の地震防災対策を検討するための基礎資料とするため、アンケート調査を実施し「平成12年鳥取県西部地震震災体験記録」として取りまとめた。

※ この震災体験記録の中から、県民に対するアンケート結果を数点転載する。(回答者数784、単位は%)

アンケートの概要

(1) 調査時点

平成13年3月

(2) 調査対象者

- ・ 県民調査 (14市町村)
1,000名 (回収率78.4%)
- ・ 防災関係者 390名 (回収率65.6%)

(3) 主な調査項目

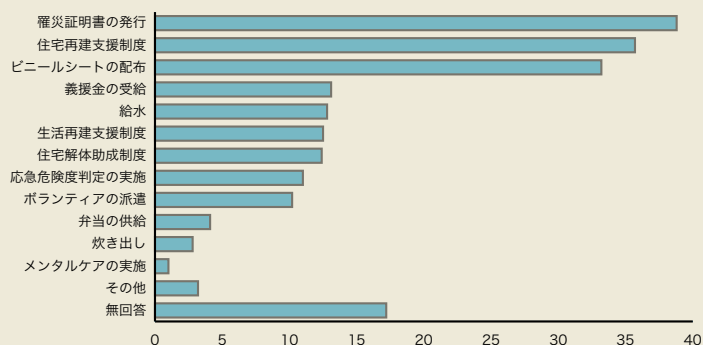
- ・ 地震発生時の状況
- ・ 最初に知りたかった防災情報
- ・ 有効だった災害対策
- ・ とても不満と感じた災害対策
- ・ 県・市町村で早急に強化すべき防災対策 など



アンケート結果が掲載された「平成12年鳥取県西部地震震災体験記録」

◆ 御家族にとって、とても有効であった災害対策は、何ですか。(回答は3つ以内)

「罹災証明書の発行」「住宅再建支援制度」「ビニールシートの配布」が有効だったという回答が多い。

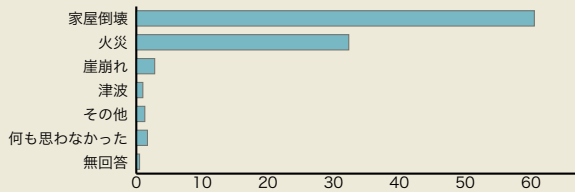


自由記載欄から抜粋

- ・ 家の損壊による補償資金の助成をさせていただいて、本当に助かりました。災害を受け、落ち込んだ気持ちの時に一筋の希望の明かりを見つけた思いでした。
- ・ 県知事、市町村の職員の方々、またボランティアの人々がいち早く一生懸命努力されて被害に遭われた方も心強かったと思います。
- ・ 息子たち、兄姉、親戚、有人等遠方にいる人たちからの連絡を「災害用伝言ダイヤル」「171」ダイヤルで知ったことは、大変嬉しく励まされました。
- ・ 住宅損害に対する補助金は額の大小はともかく、非常に心の支えになった。
- ・ 片山知事の速やかな判断、対応はすばらしいと思う。この事により県民、被災地とも鳥取県は安心して暮らせるという精神的にも救われたような気がします。
- ・ 奥日野温泉がその日から無料で入らせてくださった。涙が出るほどありがたかった。

◆ 地震が発生した時に、最も危険と感じたことは、何ですか。(回答は一つだけ)

ほとんどの人が「家屋倒壊」または「火災」を最も危険と感じている。

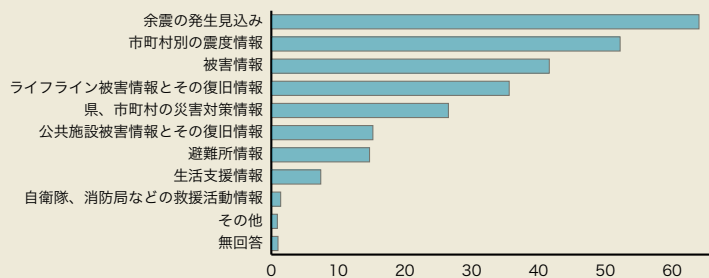


自由記載欄から抜粋

- ・避難場所へ行くまで、家々の建っている所を通り抜けるのに屋根瓦また、窓ガラスの飛び散る危険があった。
- ・隣の近くに原子力発電所があり、一番に異常がないかと不安になった。
- ・私は二階にいましたが階段の側まで行くのがやっとで、柱につかまっただまま身動きができませんでした。そして家がどちら側に倒れるかそればかり考えていました。
- ・会社事務所の揺れは大変すく事務所が倒壊しないかと一瞬の下に体を入れました。揺れがおさまりすぐ外に出ました。

◆ 地震発生後に、真っ先に知りたかった防災情報とは、何ですか。(回答は3つ以内)

半数以上の人が地震発生後、最初に必要とした情報として、「余震の発生見込み」、「市町村別の震度情報」をあげている。

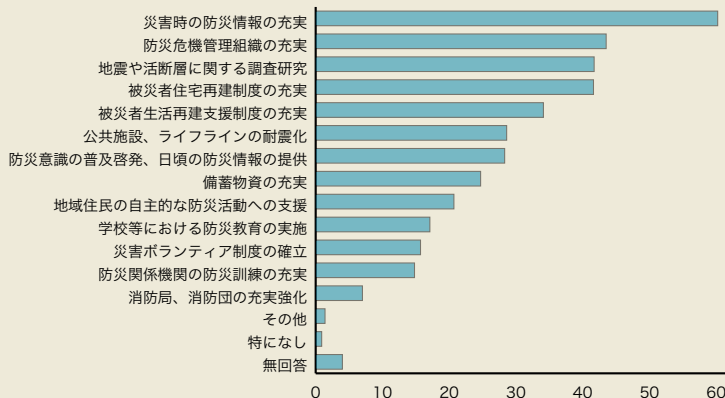


自由記載欄から抜粋

- ・地震発生の見込みをしてもらいたかった。余震の見込みもなかった。
- ・地域の情報提供や確認のルールやルート。
- ・地震や活断層に関する専門的な情報が欲しい。
- ・市町村別の震度情報の詳細を早々に知らせること。余震の発生見込みをもっと詳しく知らせること。(テレビ・ラジオを通じて)

◆ 今回の地震を契機に、県や市町村で早急に防災対策を強化すべきと考えることは、何ですか。(回答は5つ以内)

早急に強化すべき防災対策として、「災害時の防災情報の充実」が最も多く、次いで「防災危機管理組織の充実」「地震や活断層に関する調査研究」「被災者住宅再建制度の充実」「被災者生活再建支援制度の充実」などが続いている。



自由記載欄から抜粋

- ・1部落に1箇所くらい、赤電話を付けてもらいたい。
- ・市町村、広域行政の連携について改めて、地域住民によく分かる救済対策など考え直してほしい。
- ・県や市町村に防災の認識を再度検討してもらって、今の現状でなくもっと充実した防災計画やチェックリストの作成を早期にしてもらいたい。器材の装備をお願いしたい。
- ・これを教訓に我が家でも対策を講じることはもちろん、地域(町内)でも情報交換や防災組織作りをし、助け合っていける町づくりが必要だと感じました。
- ・突然の災害の時、どこに避難すれば良いか分からないので、緊急の時のために地区の住民の人にどこへ逃げると良いかを指導しておいて欲しいと思いました。
- ・集落と町部との交通手段を早急に確保することが一番大切なことと痛感した。